



# Chocolat 通信

2014年 5月号

K'mio talks

10周年コンサートまで  
あと 9日!

「お客様に喜んでもらえる演奏を」

いよいよコンサートが近づいて来ましたね。もちろんアマチュアの団体なので、「自分が主体になって楽しむ」ということで基本ラインは良いと思いますが、今回は「10周年記念」を謳っているわけですので、お客様は「10年間の集大成」を聴きに来られる訳です。ですので今回は、「来て下さったお客様に喜んでもらえる」演奏を目指したいと思います。それがお客様へ対する、ショコラの団員としての一人一人の責任でもあると思います。そのためには何が必要か、というとショコラで過ごすたった二時間以外の時間をどう過ごすか、ということです。私は後半の曲は「暗譜で」と言っていますが、本来なら全ての曲を暗譜すべきなのです。それくらいやらないと曲の表現なんか出来る筈が無い、というのが私の持論です。表現というのは「魂の震え」だと私は思います。楽譜に寄り付いていたのでは魂は微塵も動きません。魂の震える演奏が出来れば、お客様は「来て良かった」と思っ下さるでしょうし、自分達も「やって良かった」と言える事でしょう。

(Noboru Kamio)

田辺先生より

私が初めてショコラのVTに伺ったのは、2013年1月……一番印象的だったのは、年齢層が幅広いことでした。同じ年代の人が集まった合唱団(例えば高校や大学の合唱部)にはもちろんそれなりの良さがあるのですが、20代から60代までと様々な年齢の方々がいらっしやるショコラは、それだけ音色も音楽性も表情も多様で豊かです。マスゲームのように統一のとれたコンクール合唱とは全く違う魅力が、ショコラにはあるのです!

歌に王道はなく、正しい道はひとつしかないと信じているので、いつも同じことを繰り返し申し上げることになってしまうのですが、「またか」と思わないで下さいね。

実際、毎回 20:40頃にはショコラはすばらしい音色、すばらしいアンサンブルになっていて、私も「ああ、VTさせていただいてよかったなあ!」と思っています。……願わくは、その時の響きをそのまま次週の練習に持って行っていただけたらうれしいです!



田辺いづみ

断腸の思い

「演奏会に向けて」

10周年演奏会が目前に迫りました。言うまでもなく10周年演奏会は1回しかありません。悔いの無い演奏会にしようと思っている事でしょう。今さらじたばたしてもしょうがないという考えもありますが、ここは最後の最後まで質を高める努力をしてほしいと思います。暗譜の精度を高める事や歌詞の意味を深く考えて先生の指導に従い、より感情を込める表現ができるようにする等、まだできる事があるはず。土壇場の努力は決して無駄になることは無く、舞台だけでなくその後の自信に繋がることでしょう。「あきらめたらそこで試合終了ですよ……?」(「スラムダンク」から安西先生のセリフ)は私の大好きな言葉。最後まであがいて本番はリラックスしながらも集中して全力を尽くす。そうすれば私たちの舞台に音楽の女神ミューズも微笑んでくれることでしょう。

(佐々木 晋)

## S 阿部紀世

10年一昔といいますが、シヨコラにも歴史があります。今、目の前にたくさんの楽譜が詰まったダンボールがころがっています。壁には、今よりちょっと若い写真が飾っており、当時の仲間達と笑顔で写っています。

卓球と合唱の二股をかけている私ですが、二兎を追う者は～のたとえのように、どちらも未だ未完成です。

確かシヨコラも4人(?)で始まり、晋ちゃん(団長)と勧誘に力を入れました。神尾先生も、練習後は必ず居酒屋に顔を見せてくださり、ユーモア溢れるお話を聞かせてくださいました。

指揮棒を持って指揮のまねごとをしたり、鏡を持って口の開け方を教えていただいたりしました。最初の本番はせせらぎ(初台)でした。合宿を経験し、歌を通して大いに楽しみました。

最近では田辺先生にポイトレをお願いし、少しずつ効果が現れ、シヨコラのこれからが楽しみです。やってきて良かったと感謝で一杯です。ありがとうございます。10周年コンサートに向け、声を合わせ、心を合わせ、歌いましょう。



## A 根本悦子

1年とほぼ9ヶ月。早いもので平成24年9月にシヨコラにご縁を頂いてからあつと言う間に月日が過ぎたように感じます。合唱でボランティアに参加したいと思いネットで探し、なんとなく心惹かれ入団させて頂いたのがシヨコラでした。ジャズが好きだった私が友達の影響で合唱やオペラを聞きに行くようになり、自分でも歌ってみたいと思うようになったのがきっかけだったと思います。

念願叶い初めてホームを訪ねた時は、本当に嬉しかったのを思い出します。

毎週、神尾先生、田辺先生、赤司先生の楽しくも真剣なご指導と合唱団の皆さんの何気に可笑しく楽しくそして暖かい雰囲気の中で、練習が終わり帰る頃はすっきり爽やかな気分になって帰る事が出来、本当に有り難く思っています。ただ、悩みの種は皆さんのレベルについていけない事です。それでも楽しくをモットーに皆さんとハーモニーをつくっていかれたらと願っています。これからも宜しくお願い致します。



## T 黒岩良

僕がシヨコラに入ったのは約2年前でした。柏の合唱団をやめて、他の団を探していた時に、歌っている曲がいいなと思って入団させていただきました。手紙、聞こえる、鷗、心の瞳、COSMOS、などなど。僕の好みにどストライクだった曲が並びます。今回の演奏会の曲、百万本のバラも好きなもののひとつでした。町にやってきた美しい踊り子に町の男たちは恋をし、数を競うようにたくさんのバラの花をプレゼント。しかし、貧乏画家の青年はバラを買うお金もなかったため、踊り子が町を去るときに通る道からよく見える岩肌に大きなバラの絵を描いて、踊り子に愛を表したという話の曲…かと思ってたら、全然違う内容でした。いったい、僕はどこでこの話を聞いたのでしょうか？謎です。ただの妄想だったりしてね。

